

小学部4年「顔を描こう」（生活単元学習）

取組の理由 年間指導計画の「10才を祝う会」と図画工作で、「顔」を描くことが計画されていた。友だちや自分の顔を描く活動にデジタル活用ができないかと考えた。

使用端末 GIGAスクール端末、教員用iPad
ツール、アプリ Keynote、タッチペン、インタラクティブボード、テレビモニター、写真、カメラ

取組内容 初回：Keynoteの使い方に外部専門員とともに授業を行った。
<授業の内容>
①アプリの立ち上げ
②写真を撮る ③顔をなぞる
④保存する



授業の様子→

【作品の例】



2回目以降：「10才を祝う会」の一環で、誕生月の友達の顔をそれぞれのGIGAスクール端末で描く。筆記具（タッチペンか指）は児童によって変更した。

2学期以降は、月1回、1時間程度実施した。
アプリでは操作やこだわりの面で描くことが難しい児童のためにアナログの教材（顔写真をコピーした下絵とプラ板）を併用した。

小学部4年「顔を描こう」（生活単元学習）

授業後の児童・生徒の様子や変化

様子

- ・指でタッチすることにより、ためらいのあった児童にタッチペンを渡したところ、積極的に描きはじめた。
- ・ペンの色を変えるなどの操作は、児童の方が習得が早く、夢中になって行う様子が見られた。

変化

- ・回を重ねるごとに顔の輪郭や目、口などを意識できる児童が増えた。
- ・GIGAスクール端末に触れる機会が増やせたことで、フリックやタップなどの操作の自発的な動きが上達した。

ICT機器を使って
みて

- ◎教材（友達や自分の顔写真）を共有できることがよい。
- ◎GIGAスクール端末を集団の授業に取り入れることで、教員の活用の機会が増えた。

◎：よかったところ
△：課題、問題点等

- △教員がアプリの機能をよく知り、絵を描くときにすぐに対応できるようにする必要がある。操作に時間がかかると児童の集中が切れてしまったり、時間が無駄に過ぎてしまう。
- △児童には、日頃からGIGAスクール端末に触れ、タッチやペンの扱いに慣れる環境を設定する必要がある。
- △プリントなどの出力に手間が掛かる。